

学校における安全教育の取組のさらなる充実

第 4 回有識者会議 資料

2026年 3月 2日

目次

I. 本年度の方針

1. 実施事項
2. 会議スケジュール

II. 実施内容

1. 成果物案
2. 「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」と本資料の関係の整理
3. 事例部分の成果物案

I

本年度の方針

1. 実施事項

■ 学校における安全教育の取組のさらなる充実

資料 3-3



「第3次学校安全の推進に関する計画(令和4年3月25日閣議決定)」における主な関連記述

3. (1) 安全教育に係る時間の確保

国は、学習指導要領の下、各学校における安全教育が保健体育をはじめ関連する教科等で体系的に実施され、その指導の充実が図られるよう、好事例を周知することや「学校安全の推進に関する計画に係る取組状況調査」において実施状況等を定期的に把握し、公表していくことにより、各学校が学校安全計画に安全教育を取り扱う時間を適切に位置付け、年間の指導時間の確保に取り組むことを推進する。

3. (3) 学校における教育手法の改善

国は、発達の段階に応じて、被災地を含めた様々なボランティア活動などの体験活動やデジタル技術を活用した学びによる安全教育の推進を図る。また、児童生徒等が楽しく前向きに取り組めるような魅力的な授業事例、教職員が活用しやすいコンパクトな授業事例の共有やその推進を図る。安全教育についてはその効果の検証も重要であり、国は、安全教育の評価の在り方について検討を進める。等

事業内容

有識者会議等の意見を踏まえ、**安全教育の取組に関する先進事例等を収集し、各学校における安全教育の体系的な実施や、指導内容を充実するための観点や手法等を整理した資料を作成する。**

主な方法

- セーフティプロモーションスクール
認証校等に対するアンケート調査
- ヒアリング調査

安全教育の体系的な実施や指導
内容を充実するための資料 作成



先進事例等の収集方法

- ・セーフティプロモーションスクール認証校、学校安全総合支援事業モデル校等に対するアンケート調査を実施
- ・上記対象校について、有識者からの意見も聞きながら、さらに対象を選定し、ヒアリング調査も実施

調査の観点

- ・カリキュラム・マネジメントの考えを踏まえた教育課程への反映
- ・学校安全計画への位置付けや目標設定
- ・全教職員による安全教育推進のための校内組織体制
- ・コミュニティ・スクールなど地域と連携した安全教育の取組
- ・体験活動やデジタル技術の活用等の授業事例
- ・効果的な安全教育の評価手法 など

関連調査研究

- ・学校安全のモデル的取組に関する実態調査(R7)
〔委託業者〕株式会社NTTデータ経営研究所

事業の流れ

- STEP 1 : 調査対象・調査方法の検討 (7~9月)**
※第1回有識者会議で事業の方向性を提案し、意見聴取
※委託事業者によるアンケート調査の検討・実施(8月~)
※適宜、有識者から指導・助言
- STEP 2 : 調査実施・結果分析・整理等 (9~12月)**
※委託事業者によるヒアリング調査実施(9~12月)
※第2回有識者会議(10月末)で先進事例等の選定、
分析状況等を進捗報告
- STEP 3 : 成果物の取りまとめ(12~3月)**
※第3回有識者会議(12月末)で成果物の素案を提案し、
意見聴取
※第4回有識者会議(2月)に成果物の案を提案し、意見
聴取 → 年度内取りまとめ

事業の成果物(イメージ)

- ・ **安全教育の体系的な実施や指導内容を充実するための資料**(掲載内容)
収集した先進事例等を分析し、安全教育の体系的な実施や、指導内容を充実するための観点や手法等をわかりやすく整理
手法等について、有識者の意見も踏まえた解説を付すなど、各自治体・学校現場に浸透する、活用しやすい形式となるよう工夫する

成果物の活用イメージ

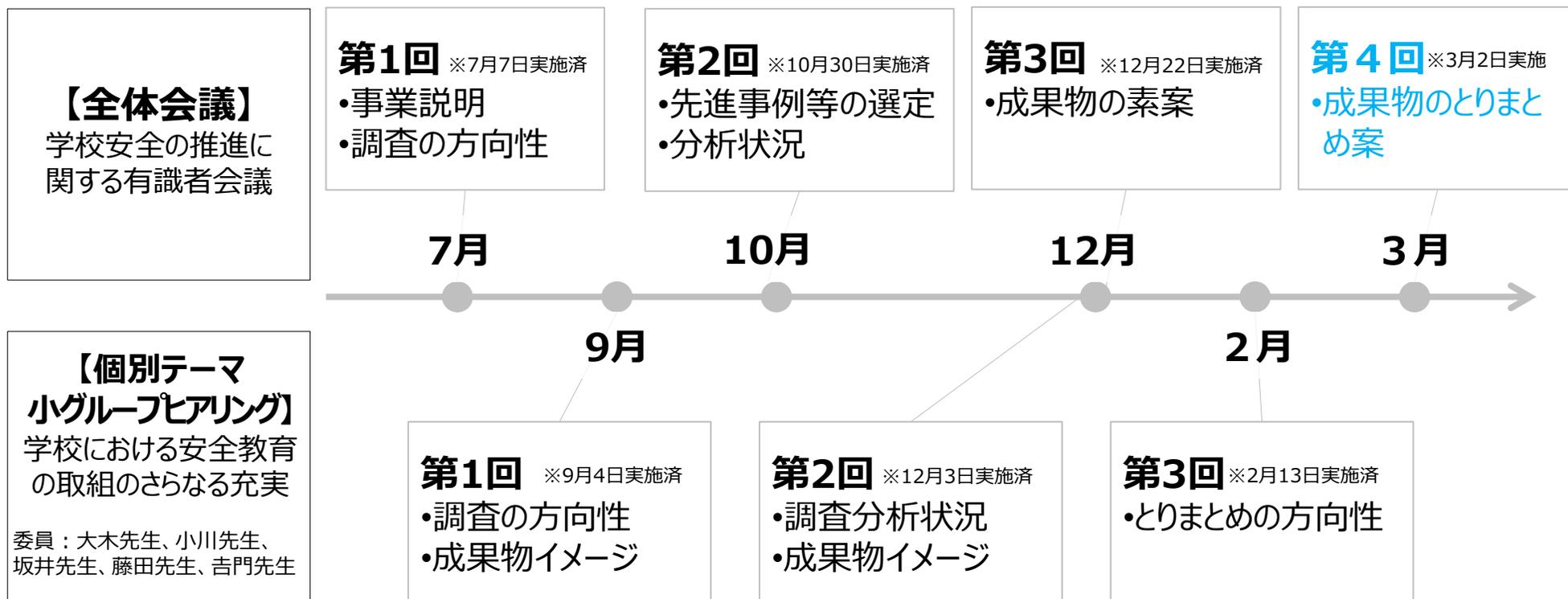
- ・(文科省)
都道府県教委等への通知、研修会等での活用 など
- ・(各自治体、設置者)
各学校現場への周知、研修会等での活用 など

2. 会議スケジュール

- 本会議（学校安全の推進に関する有識者会議）では、令和7年度中に4回にわたり検討を実施。また、この全体会議とは別に、調査・分析や取りまとめの方向性等、事業推進に関する重要事項について協議する小グループヒアリングを同年度内に全3回実施（済）。

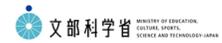
事業のスケジュール

青：現在



II

実施内容



文部科学省
MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

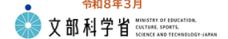
教育活動全体を通じた
効果的な安全教育のための

実 践 解 説

令和8年3月

教育活動全体を通じた
効果的な安全教育のための実践解説

令和8年3月



文部科学省
MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

1. 成果物案

- これまでも「実践的な防災教育の手引き」をはじめ、**個々の実践的な授業事例に着目した安全教育の好事例集**は作成されてきたが、今年度作成する資料については、**教育活動全体を通じた安全教育が効果的に実施**されるよう、**先進的な事例について、その背景やプロセス、成功要因、阻害要因などを分析しながら、主に学校の安全教育の評価の取組を含め、安全教育全体における運用上の仕組みに関する具体的な項目を解説**する。
- 主な読者層としては、**教育委員会における学校安全関係者**や、各学校における**学校安全の中核を担う教職員**をはじめ、避難訓練・交通安全教室や、各教科において安全教育を実施する教員など、**安全教育の実践者**を対象とする。

作成方針と目次案

| | |
|--------|--|
| 仮題 | 教育活動全体を通じた効果的な安全教育のための実践解説 |
| 主な想定読者 | 教育委員会（都道府県・市町村）の学校安全関係者、学校安全の中核を担う教職員はじめ、安全教育の実践者 |
| 目次案 | <p>はじめに</p> <p>第1章 本資料の位置づけと構成</p> <ul style="list-style-type: none">・ 「生きる力をはぐむ学校での安全教育」の実践にむけて・ 安全教育が目指すこと・ 本資料の構成 <p>第2章 教育委員会編</p> <p>(1) 「目標」に関するポイント</p> <ol style="list-style-type: none">1 各学校に対し、着実な目標達成を促していますか？ ～設置者が定める安全教育の目標を学校安全計画に反映させる～2 各学校に対し、安全教育の目標を共有していますか？ ～設置者が定める安全教育の目標に学校の独自性を組み合わせる～ <p>(2) 「内容」に関するポイント</p> <ol style="list-style-type: none">1 各学校では、体系的な安全教育がなされていますか？ ～体系的な学習により、安全教育の底上げを図る～ <p>(3) 「進め方」に関するポイント</p> <ol style="list-style-type: none">1 各学校では、どのような体制で安全教育を推進していますか？ ～地域ぐるみ、中核人材双方の視点を重視する～2 各学校では、子供の主体性を育む安全教育を行っていますか？ ～体験重視や話し合い等を取入れたプログラムの導入を促す～ <p>(4) 「評価」に関するポイント</p> <ol style="list-style-type: none">1 各学校では、それぞれの特徴にあった安全教育の評価が行われていますか？ ～評価方法を提示することで各学校での取組を促進する～ <p>第3章 学校編</p> <p>(1) 「目標」に関するポイント</p> <ol style="list-style-type: none">1 安全に関する資質・能力の育成につながる目標を設定していますか？ ～体系的な安全教育の目標を設定する～2 発達段階に合わせた目標設定をしていますか？ ～目次から共通へ段階的につながる安全教育の目標を設定する～ <p>(2) 「内容」に関するポイント</p> <ol style="list-style-type: none">1 継続的に知識や技能を積み上げていきますか？ ～教育課程に体系的に安全教育を位置づける～2 系統的な安全教育の視点を持っていますか？ ～小中9年間で発達した安全教育のかけこみをつくる～ <p>(3) 「進め方」に関するポイント</p> <ol style="list-style-type: none">1 子供たちの思考力、判断力、表現力等をどのように育成していますか？ ～安全教育の中に「考える」要素を取り入れる～2 安全教育を通して、豊かな人間性等の育成につながっていますか？ ～実践や人とのつながりにより深い学びを得る～3 子供たちの自主性や主体性を喚起できていますか？ ～防災マップ作りを通して探究的な学習を展開する～4 命を守る実践的な力を育成できていますか？ ～失敗の仕掛けや抜き打ち訓練を組み合せ判断力を育成する～5 日常的教育活動と非常時の行動が結びついていますか？ ～普段からの活動を通じた学びにより、非常時に備える～ <p>(4) 「評価」に関するポイント</p> <ol style="list-style-type: none">1 子供たちの成長を適切に評価できていますか？① ～活動の結果を定性的・定量的に把握し、次につなげる～2 子供たちの成長を適切に評価できていますか？② ～地域や学校の特徴にあった評価方法を生み出す～3 改善・発展していく安全教育となっていますか？ ～共通の視点の整理や授業実践の組織的な見直しから次期計画を立案する～ |

コラム：学校安全計画の見直しに向けた全国の取組事例

参考資料
協力者一覧
用語集

2. 「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」と本資料の関係の整理

- 本年度作成する資料では、「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」で示されている項目立てに沿って、全国の教育委員会・学校が参考とできるような、**運用上の仕組みに関する効果的なポイントを列挙して解説**する。さらに、個々のポイントに対して、**全国の具体的かつ先進的な実践事例をぶら下げて掲載**し、各地域において自らの取組を見直し、**実際に新たな取組を取り入れてもらえるような内容**とすることを旨とする。

「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」と本資料との関係



| 目 次 | |
|---------------------------------|----|
| 第1章 総 説 | |
| 第1節 学校安全の意義 | 7 |
| 1 学校安全の意義 | 7 |
| 2 学校安全に関する現状と今後の推進の方向性 | 8 |
| 第2節 学校安全の考え方 | 9 |
| 1 学校安全の定義 | 10 |
| 2 学校における危機管理の推進について | 12 |
| 3 学校安全に関わる法令 | 13 |
| 第3節 学校安全計画 | 19 |
| 1 学校安全計画とは | 19 |
| 2 学校安全計画の策定と見直し | 21 |
| 第4節 危機管理マニュアル | 22 |
| 1 危機管理マニュアルの考え方 | 22 |
| 2 学校における危機管理マニュアルの作成・見直しの考え方・手順 | 23 |
| 第2章 学校における安全教育 | |
| 第1節 安全教育の目標 | 27 |
| 1 安全教育の目標 | 27 |
| 2 各段階における安全教育の目標 | 28 |
| 第2節 安全教育の内容 | 29 |
| 1 安全教育の各領域の内容 | 29 |
| 2 教育課程における安全教育 | 30 |
| 第3節 安全教育の進め方 | 36 |
| 1 安全教育の基本的な進め方 | 36 |
| 2 各教科等における指導 | 37 |
| 3 特別活動における指導 | 39 |
| 4 日常の学校生活における安全に関する指導 | 46 |
| 5 幼稚園における安全に関する指導 | 47 |
| 第4節 安全教育の評価 | 48 |
| 1 安全教育の評価の意義と内容 | 48 |
| 2 安全教育の評価の方法 | 49 |

本資料の構成の方向性

全国の先進事例に対するヒアリング結果を元に、「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」で示されている項目立てに沿って

①目標、②内容、③進め方、④評価

の4つのカテゴリ分けのうえ、教育活動全体を通じた安全教育のための**運用上の仕組みに関する効果的なポイントを列挙して解説**。また、個々のポイントに対して、全国の具体的かつ**先進的な実践事例をぶら下げて掲載**。

「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」では、「第2章学校における安全教育」の第1～4節において、**安全教育の①目標、②内容、③進め方、④評価**について解説

3. 事例部分の成果物案

各ページの構成

安全教育全体における運用上の仕組みに関するポイント

ポイントの説明

読者に伝えたいキーワード

ポイントに紐づく事例

概要：全体像をコンパクトに記載

特徴的な仕組や手法：各学校設置者や学校の取組の特徴を、3つ程度にまとめて記載

学校/安全教育の評価の方法

系統的な安全教育の視点を持っていますか？

～小中9年間を見通した安全教育のカリキュラムをつくる～

安全教育の評価づくりでは、話し合い・体験・振り返りを通して、子供の危険認知や判断力、主体的行動の変化などを把握する例がみられる。

【事例ので取組（例）】

- 話し合いの姿勢などの観察による評価
- 自己有用感、判断力などの変化に対する自己評価
- 訓練等のおの振り返りと連動した評価
- 3か年計画に基づいた段階的な目標設定と評価づくり
- 簡易テストの実施 など

事例① **小学校での学びを活かし、自助から共助へとステップアップ**

キーワード #自助・共助・公助 #地域連携

概要

岐阜県飛騨市立古川中学校では、防災を題材に、生徒一人一人が地域課題を設定し、調査・熟議・発信まで行う探究的学習「防災マイプロ」に取り組んでいる。小学校段階で身に付けた知識や技能を基盤に、自助から共助へと役割意識を段階的に広げる目標を設定し、地域の一員として行動する資質・能力の育成につなげている。

特徴的な仕組や手法

<小学校段階の学びを基盤とした目標の再定義>

小学校段階で身に付けた防災知識や技能を前提とし、中学校では「知っている」状態から「地域で生かす」段階へと目標を再定義していた。自助にとどまらず、共助・公助の視点を段階的に位置付けることで、生徒が地域の一員として行動する姿を具体的な到達像として設定している。

発達段階に応じて役割意識を広げる設計となっており、学びを次の成長段階へつなげる目標設定だった。

<地域での実践を通じた自助から共助への移行>

防災マイプロでは、座学中心のインプットに終始せず、地域での活動や発信を通じて学びを実践に結び付けている。地域行事への参加や防災マップづくりなどを通して、自分の安全を守る自助の意識から、他者や地域を支える共助の意識へと段階的に移行させている。

生徒が「地域人としての自分」を意識できるよう、目標が具体的な行動レベルで設定されている。

<発達段階に応じた資質・能力を見据えた評価と改善>

自助・共助・公助の考え方を資質・能力として捉え、アンケートによる数値化と地域との熟議を組み合わせて評価していた。数値化しにくい成長についても、地域からの声や生徒の振り返りを重視し、次年度の目標設定やカリキュラム改善に反映している。

発達段階に応じた目標と評価を往還させながら、取組を継続的に改善している点が特徴である。

取組の経緯

<小学校の学びを地域実践へつなぐ挑戦>

本取組は、小学校段階で培われた防災の知識や技能が、中学校段階で十分に生かされていないという課題意識から始まった。従来の防災教育は、知識習得にとどまりやすく、自助の意識は育っても、共助へとつながりにくい側面があった。

そこで、防災マイプロを通して、中学生として地域に関わる必然性を明確にし、発達段階に応じた目標を再構成した。地域での実践や発信を位置付けることで、生徒は自分の学びが地域に役立っているという経験を積み重ねている。一方で、資質・能力の評価は容易ではなく、数値化できない成長の見取りに迷いもあった。アンケートと地域との熟議を組み合わせる工夫を重ね、評価結果を次年度の目標設定へ反映することで、発達段階に応じた安全教育の改善を継続している。

■防災マイプロの概要が分かる資料

資料入手予定

■評価項目

資料入手予定

取組の経緯：これまでの問題・課題やその乗り越え方、効果などを記載

取組を分かりやすく伝える写真・資料等を添付予定